

# “明白”と“弄明白”の相違について<sup>1)</sup>

柴田 奈津美

## 要旨

現代汉语の動結式と他の言語と比較、使用上の制限比較弱、表示行為の動詞(V)と表示結果の補語(R)と比較自由に搭配。有时在V的位置上出現只表示抽象意義的形式動詞(D)。关于这些動結式里的形式動詞,石村(2000)、望月(2003)指出它們的功能在于把后面的形容詞或不及物動詞變成及物動詞,使它們帶有使動意義。但是有一些能帶賓語的心理動詞也在動結式里出現并表示結果。本文分析了心理動詞单独作謂語時与用形式動詞D來構成動結式(DR)作謂語時的區別与動結式里出現的形式動詞的功能。

キーワード：ダミー動詞, VR型述語, 使役, 意図性, 状態変化

## 1. 問題提起

中国語は多くのイベントを前項動詞(V)が動作を表し後項述語(R)が結果を表すVR型述語で表わすことができる。また、中国語ではVRのVに具体的な意味を表わさないダミー動詞(dummy verb: D)が用いられることがある<sup>2)</sup>。

- |        |     |    |      |            |           |                  |
|--------|-----|----|------|------------|-----------|------------------|
| (1) a. | 他   | 把  | 桌子   | 擦-脏        | 了。        | (彼はテーブルを拭いて汚した。) |
|        | 3SG | OM | テーブル | 拭く-汚れている   | PFV/PRTCS |                  |
| b.     | 他   | 把  | 桌子   | 弄-脏        | 了。        | (彼はテーブルを汚した。)    |
|        | 3SG | OM | テーブル | NONG-汚れている | PFV/PRTCS |                  |
| c.     | *他  | 把  | 桌子   | 脏          | 了。        |                  |
|        | 3SG | OM | テーブル | 汚れている      | PFV/PRTCS |                  |

(1a) はテーブルが汚れた原因である動作は“擦”(拭く)であることが示されているが、(1b) は具体的な動作を表わさない“弄”が用いられ、“他”(彼)がテーブルを汚した原因となる動作は明記されていない。このようにVRのVにダミー動詞“弄”が用いられることについて、石村(2000)、望月(2003)はR位置に置かれた1項述語を他動詞化、使役化させる働きがあることを指摘している。(1c)のように、1項述語であり目的語を取るこ

とができない“脏”(汚れている)は、ダミー動詞“弄”を用いVRを構成することで目的語を取ることができるようになり、「汚す」という使役の意味を持つようになる。しかし、(2)のように、2項述語としての機能を持つ一部の心理動詞もダミー動詞のR位置に現れることがある。

- (2) a. 我 弄-明白 他 的 意思 了。(私は彼の考えを理解した。)  
 1SG NONG-分かっている 3SG NOM 考え PRTCS
- b. 我 明白 他 的 意思 了。(私は彼の考えを理解した。)  
 1SG 分かっている 3SG NOM 考え PRTCS

“明白”は(2b)のように単独で述語を構成しても直後に目的語を取ることができ、対応する日本語を当てても(2a,b)の違いを訳し出すことはできない。また、石村(2000)、望月(2003)は、VRのVに現れるダミー動詞の機能について指摘はしているものの、いずれも詳しい議論がされているわけではなく、Rを使役化、他動詞化させるという説明でも両者の違いをうまく捉えることができない。本稿では、このような2項述語としての機能を持つ心理動詞が単独で述語を構成した場合と、ダミー動詞を用いてVRを構成した場合(DR)との違いを明らかにし、VR述語に現れるダミー動詞の機能について考察する。

## 2. 研究対象とデータ

DRに現れるダミー動詞には、“弄”の他に“搞”“闹”がある<sup>3)</sup>。

- (3) 我们的经验教训有许多条，最重要的一条，  
 (我々の経験、教訓は数多くありますが、最も重要な一つは  
 就是要 搞-清楚 这个 问题。 《邓小平文选第三卷》  
 絶対に したい GAO-分かっている これ CL 問題  
 この問題を明確にすることです。)
- (4) “我今个才真正解开了心里的一个大疙瘩，闹-明白 一 个 大道理！”  
 NAO-分かっている 一 CL 主要な道理  
 (「俺は今日、やっと胸のつかえがとれた。主要な道理が判ったんだ!」)《金光大道》

“搞”“闹”も“弄”と同じようにDRに現れる抽象的な意味しか表さないダミー動詞であるので、これらも研究対象とした。例文は文学作品や政治などに関わる論説の文章で構成されている『中日対訳コーパス』<sup>4)</sup>から集め、分析を行った。ここにはDRを形成している例は“弄R”261例、“搞R”327例、“闹R”58例、合計646例現れた。そのうち、Rが2

項述語としての機能を持つ心理動詞は、“懂”(理解している)“清楚”(分かっている)“明白”(分かっている)で、合計94例だった<sup>5)</sup>。

“懂”“清楚”“明白”が単独で述語となっている例も同じコーパスから集めた。“明白”“清楚”は単独で述語となるとき「分かっている」という意味の動詞のほかに、例えば“抗戰胜利的果实应该属谁？这是很明白的。”《毛泽东选集第四卷》(抗戰勝利の果実は誰のものであるべきか。それは非常にはっきりしている。)や“他的颧骨真难看，象另外装上去的，周界太清楚了！”《人啊，人》(彼のほほ骨はなんて醜いのだろう。あとからくっつけたみたいに、輪郭がくっきり!)のように、「はっきりしている」という意味の形容詞としての用法がある。本稿では、形容詞として用いられているものは排除し、主語が経験者(Experiencer)である動詞としての用法のみを対象とした。“懂”“明白”“清楚”が動詞として単独で述語となっている例は“懂”が289例、“明白”が567例、“清楚”が92例の合計948例であった。それぞれの述語とそれらのDR型述語の出現回数は以下の表1に示す。

表1 “懂”“清楚”“明白”とそのDR型述語の出現回数

弄			搞			闹			懂	明白	清楚
懂	明白	清楚	懂	明白	清楚	懂	明白	清楚			
11	23	31	1	3	15	0	4	6	289(76)	567(250)	92(14)
94									948		

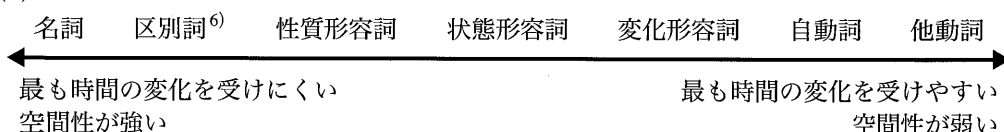
(括弧内は直後に目的語として名詞句や補文を伴っているものの数)

### 3. 中国語の状態動詞

#### 3. 1 品詞体系内部に存在する連続性

“懂”“明白”“清楚”のような心理動詞が状態を表す動詞であることは先行研究でも指摘されている(荒川1980, 1995、马庆株2002)。中国語は形態変化を持たないので、英語や日本語のようにその形態的特徴を手がかりに品詞を特定することが難しい。また、形容詞であっても“了”などアスペクトを表す成分を伴い動詞的な振る舞いをするなど、中国語においては品詞間での移り変わりが容易に起こることが指摘されてきた(张伯江1994)。形容詞を詳細に分析した张国宪(2006)は、品詞体系の内部において(5)のようなコントラストが存在し、名詞と動詞はその品詞体系の両極端に、形容詞は名詞と動詞の中間に位置することを指摘している。

(5)



形容詞は性質形容詞、状態形容詞、変化形容詞の3タイプに分けられる。性質形容詞とは、恒久的な属性を表し、時間とは無関係な静態的な性質を表す。例えば“红旗”(赤旗)の“红”(赤い)である。“红旗”は「赤い」という属性を持つ旗のことを指すが、この「赤い」は時間とは無関係な性質を表している。状態形容詞も静態的であるという点では性質形容詞と共通するが、状態形容詞は時間を背景として存在しており、一時的な状態を表すという点で異なる。具体的には“鲜红的叶子”(真っ赤な葉)の“鲜红”(真っ赤)がある。“鲜红”も“红”と同様に静態的な状態を表すが、これは恒久的な属性ではなく時間を背景とした一時的な状態を表している。変化形容詞は、「時間」という舞台の上で存在し、動態的である。例えば“红了的叶子”(赤くなった葉)の“红(了)”(赤くなった)は新しい事態が発生したことを表す“了”を伴い、赤くない状態から赤い状態への変化を表している。红(了)が変化を表すのは“了”の機能によるものではないかと考えられるかもしれないが、潜在的に変化義を持たない“新”(新しい)などの性質形容詞は、“了”をつけ“\*新了”(新しくなった)とすることはできないので、“红(了)”が変化を表すのは“红”が潜在的に変化義を有するためであると言える。これら3タイプのうち最も時間の変化を受けにくいのが性質形容詞で、最も時間の変化を受けやすいのが変化形容詞である。

このように形容詞には静態的なものと動態的なものがあると指摘されてきたが、同様に状態動詞に分類される動詞にも動態的な意味を表すことができるものがある。次節では、“懂”“明白”“清楚”は変化義が内在する状態動詞であることを示し、これらがどのような条件の下で動態的な意味を表すのかについて述べる。

### 3. 2 状態動詞に内在する状態変化義

状態動詞について詳細な分析を行っているものに荒川(1995)がある。荒川(1995)では、「一つの動詞が付加成分をとまわらない、いわばハダカの状態で言い切ったときに、それが未来の動作を表すか現在の動作を表すか」により、未来の動作を表す動詞を動作動詞、現在の動作を表す動詞を状態動詞と分類し、状態動詞が共通して持つ特徴を[+状態]で現している。そして、中国語の一部の状態動詞は[+状態]と[-状態]の両方の意味を持ち、それらは一定の条件のもとで[-状態]や[出来事](状態のはじまり)といった意味特徴を獲得することを指摘している。以下では荒川(1995)の挙げるその8つの条件を示し、どの条件の下で“懂”“明白”“清楚”が[-状態][出来事]義を表すことができるのかを検証する。

#### A. “吧”を伴った命令文

通常、状態動詞は命令文には使えない。したがって、命令と推測のいずれかの語気を表すことができる“吧”を伴った場合、“你有妹妹吧。”(妹がいるでしょう。)のように状態動詞の場合は推測の意味しか表せない。しかし、心理動詞の中には、“你爱我吧。”(私を愛しているでしょう[推測]。/私を愛してください[命令]。)のように“吧”を伴い、命令

も推測も表すことができるものがある。しかし、“懂”“明白”“清楚”は(6)のように“吧”を伴って命令を表すことはできない。

- (6) a. \*不 懂 的 地 方 问 一 问,  
NEG 理解している NOM 場所 問う 少し 問う  
尽快 懂 吧, 不然真的会没有时间!!  
なるべく早く 理解している PRTIMP  
(分からないところは聞いて、早く理解して!! そうでないと時間がなくなります!!)
- b. \*将来 早晚 要 懂 的, 早点 明白 吧!!  
将来 遅かれ早かれ 必要がある 理解している NOM 早く 分かっている PRTIMP  
(遅かれ早かれ理解しなければならないのだから、早く分かりなよ!!)
- c. \*这 个 你 快点 清楚 吧!! (これを早く分かりなさい。)  
これ CL 2SG 早く 分かっている PRTIMP

#### B. “不”による「意志」の否定

“不”は状態動詞に対しては「状態」義を否定し、動作動詞に対しては「動作、習慣、意志」義を否定する。しかし、“我不相信他。”(私は彼を信じていない[状態]。/信じない[意志]。のように、一部の状態動詞に対しては「状態」と「意志」の両方の否定を表すことができる。“懂”“明白”“清楚”は“不”で否定した場合、「状態」の否定は可能であるが「意志」の否定を表すことはできない。

- (7) a. ??别以为我真的很傻, 只是 故意 不 懂 你的 话。  
ただ COP わざと NEG 理解している 2SG NOM 話  
(私を本当にバカだなんて思わないで。わざとあなたの話を理解しないだけなんだ。)
- b. ??别以为我真的很傻, 只是 故意 不 明白 你的 话。  
ただ COP わざと NEG 分かっている 2SG NOM 話  
(私を本当にバカだなんて思わないで。わざとあなたの話を理解しないだけなんだ。)
- c. \*这 些 问题 我 故意 不 清楚。  
これ CL 問題 1SG わざと NEG 分かっている  
(これらの問題を私はわざと分からない。)

#### C. 「方式」を表す“怎么”

“怎么”は動作動詞の前に用いられたときには一般に「方式」を表し、状態動詞の前に用いられたときには「理由」を表す。しかし、“你怎么认识她?”(どうして彼女を知っているの[理由]。/どうやって彼女と知り合うの[方式]。のように、一部の状態動詞は“怎

么”との結合では二義的である。“怎么”は“懂”“明白”“清楚”と共起した場合、「方式」を表すことはできない。

(8) a. ??你 以后 怎么 懂 他 的 意思。

2SG 以後 ZENME 理解している 3SG NOM 考え

(後でどうやって彼の考えを理解するの?)

b. ??你 以后 怎么 明白 我 的 意思。

2SG 以後 ZENME 分かっている 1SG NOM 考え

(後でどうやって彼の考えを分かるの?)

c. \*你 以后 怎么 清楚 我 的 为人。

2SG 以後 ZENME 分かっている 1SG NOM 人柄

(後でどうやって彼の人柄を分かるの?)

#### D. 重ね型

状態動詞は通常重ね型を持たないが、自由に重ね型を作れるものや、ある条件の下で重ね型が可能なのが一歩あり、例えば“关心”(関心を持っている)が“你也多关心关心孩子的学习。”(あなたも子供の勉強にもっと関心を払ってよ。)となるように、これらは重ねた後[一状態][出来事]の意味を表す。“懂”“明白”“清楚”は(9)のように、“让”((…に)～させる)を用いた使役文においては文が成立する或いは容認度が上がるものの、このような埋め込み文ではない場合は文が成立しなかった。

(9) a. ??让 你 懂 懂 我 到底 是 什么 人。

させる 2SG 理解している 理解している 1SG 一体 COP 何 人

(私が一体どんな人だかあなたに分からせてあげるわ。)

b. 想来赵守翁经手的这十多年的帐目趁早可以公布,

(趙守義氏がこの十何年か扱ってきた帳簿をさっそくにでも公開して、

让 大家 都 明白 明白。 《霜叶红似二月花》

させる みんな すべて 分かっている 分かっている

みんなに知らせるべきだと思いますね)

c. 让 你 清楚 清楚 这 到底 是 怎么 回 事。

させる 2SG 分かっている 分かっている これ 一体 COP どんな CL こと

(これが一体どういうことなのかあなたに分からせてあげるよ。)

#### E. 一部の能願動詞との共起

状態動詞の中には“要”(～したい、～必要がある)“想”(～したい)など、一部の能願

動詞と結びつくことで、[-状態]義或いは[出来事]義を表す。例えば“他想知道你的过去。”(彼は君の過去を知りたがっている。)などがある。(10)のように“懂”“明白”“清楚”もまた“要”“想”などと共起し、[-状態][出来事]義を表すことができる。

- (10) a. 父母 要 懂 些 儿童心理学。  
 両親 必要がある 理解している CL 児童心理学  
 (両親は児童心理学を理解しなくてはならない。)
- b. 你 要 明白, 这 并 不 是 私人 攻击…。《青春之歌》  
 2SG 必要がある 分かっている これ 決して NEG COP 個人 攻撃  
 (わかってちょうだい。あれは決して、個人攻撃じゃなかったのよ…。)
- c. 西方 政治家 要 清楚, 如果 不 帮助 发展中国家, 西方  
 西側 政治家 必要がある 分かっている もし NEG 助ける 発展途上国 西側  
 面临 的 市场问题、经济问题, 也 难以 解决。《邓小平文选第三卷》  
 直面する NOM 市場問題 経済問題 もし難い 解決する  
 (もしも発展途上国を援助しないなら、西側の直面する市場問題、経済問題も解決しにくいことを、西側の政治家は知らなければなりません。)

#### F. 状態動詞+“了”

“知道”(知っている)が“了”を伴うと“知道了”(分かった)となるように、状態動詞は“了”を伴って[出来事]を表す。“懂”“明白”“清楚”も“了”を伴って[出来事]を表すことができる。

- (11) a. 今天 我 忽然 懂 了! (今日急に分かった。) 《人到中年》  
 今日 1SG 突然 理解している PFV/PRTCS
- b. 倪萍 忽然 明白 了, 爸爸 死 了! 《活动变人形》  
 倪萍 突然 分かっている PFV/PRTCS パパ 死ぬ PFV/PRTCS  
 (倪萍はハッと気付いた、パパが死んでしまったのだ!)
- c. 建国 以后 我 的 情况 你们 就 清楚 了, …《邓小平文选第三卷》  
 建国 以後 1SG NOM 状況 2PL もう分かっている PFV/PRTCS  
 (建国後の私の状況はあなたたちはもう知っています。)

#### G. 複文での使用

状態動詞は複文に用いられ[出来事]義を表す。例えば“认识”(見知っている)の“认识你, 我很高兴。”(知り合いになれてとてもうれしい。)や“知道”(知っている)の“看了你的信, 我知道你现在很苦恼。”(あなたの手紙を読んで、あなたが今とても苦しんでいるの

を知った。) 挙げられる。“懂”“明白”“清楚”もまた、複文で用いて[出来事]義を表すことができる。

(12) a. 这些琐碎的, 然而据说又非常重要的事情,

(こうしたこまごまとした、しかし非常に重要らしい事柄が、  
她 到 这 时 方 才 懂 一 个 大 概; … 《霜叶红似二月花》  
3SG 達する 此 時 や っ と 理 解 し て い る 一 CL 概 略  
やっといくらか呑みこめてきた。)

b. 明娃 明白 母亲 的 心愿, 便 显出 高兴 的 样子,  
明娃 分 か っ て い る 母 親 NOM 願 い す ぐ 現 す 嬉 し い NOM 様 子

(明娃は母親の気持ちが分かって、嬉しそうな様子を見せ、  
说清平湾的人有几个能像他这样到北京来逛过呢。 《插队的故事》  
清平湾の人で自分のように北京へ遊びに来られる者が一体何人いるだろうと  
言 っ た。)

c. 这 样 大 伙 清 楚, 我 能 放 心, 局 外 人 提 起 来,  
此 様 子 皆 分 か っ て い る 1SG 可 以 安 心 す る

(そうすりゃ、皆もすつきりするし、おれも安心だ。他がとやかく言ってきたも、  
你们解释几句也摸头脑。 《金光大道》  
みなさんにちょっと説明すれば判ってもらえるからな。)

H. “来(来る)、去(行く)”+状態動詞(+“来(来る)、去(行く)”)

中国語では“去+VP”で「～しに行く」という意味を表す。“连祖国都不懂得去爱。”(祖国ですら愛することを知らない)の“爱”(愛している)のように、一部の状態動詞は“来”や“去”と組み合わせたり、[-状態]義や[出来事]義を表す。“懂”“明白”は“去”であれば文が成立すると判断するインフォーマントもいたが、“清楚”では非文であると判断された。

(13) a. 这 些 专 业 的 东 西 确 实 需 要 慢 慢 ?去/??来 懂。

此 些 専 門 NOM も の 確 か に 必 要 で あ る ゆ っ く り 行 く / 来 る 理 解 し て い る  
(これら専門のことは、確かにゆっくり理解していく必要がある。)

b. 我 也 尽 量 ?去/??来 明 白 他 的 苦 心。

1SG も 極 力 来 る / 行 く 分 か っ て い る 3SG NOM 心 遣 い  
(私も彼の心遣いをできる限り理解するようにします。)

c. 自 己 要 做 的 事 情 我 \*去/\*来 清 楚。

自 分 し た い す る NOM 事 情 1SG 行 く / 来 る 分 か っ て い る  
(自分のやりたいことを分かろうとする。)



(13) の他に“去/来”を文末におくタイプもあるが、これは“懂”“明白”“清楚”すべてが成立しなかった。

以上のA～Hのテストをインフォーマントに行った結果とそれぞれの条件に当てはまる例のコーパスでの出現回数は表2に示す通りである。

表2 [-状態]を表す“懂”“明白”“清楚”の出現回数

	A	B	C	D	E	E	E	H
懂	0(×)	0(??)	0(??)	0(??)	9(○)	26(○)	9(○)	0(??/??)
明白	0(×)	0(??)	0(??)	1(○)	39(○)	68(○)	26(○)	0(??/??)
清楚	0(×)	0(×)	0(×)	0(○)	6(○)	10(○)	2(○)	0(×)

(括弧内はインフォーマントの判断)

“清楚”はA, B, C, Hのテストに対して全てのインフォーマントが成立しない(×)或いは非常に不自然である(??)と判断したが、“懂”“明白”はAのテストでは成立しない(×)或いは非常に不自然である(??)で一貫しているものの、B, C, Hのテストに対してはインフォーマントによって成立しない(×)から成立する(○)まで判断が分かれた。また、コーパスには、例えば“让”(…に)～させる)や“容易(懂)”(簡単に(理解できる))などとの共起など、A～H以外の要因で“懂”“明白”“清楚”がそれぞれ[-状態]或いは[出来事]義を表していることもあり、それらを合わせると“懂”“明白”“清楚”が[-状態]或いは[出来事]義を表す例はコーパスには“懂”が60例(20.7%)、“明白”が330例(58.2%)、“清楚”が18例(19.6%)現れた。以上のように、“懂”“明白”“清楚”は一定の条件の下で[-状態]あるいは[出来事]義を表す状態動詞であることが分かる。

A～Hのうち“懂”“明白”“清楚”が[-状態][出来事]義を表す環境として最も多くコーパスに現れたのはFの“了”を伴うタイプで、“懂”が26例、“明白”が68例、“清楚”が10例の合計104例であった。“了”は一般に2種類あることが知られている。一つは、述語の後に置かれて完了のアスペクトを表す動詞接尾辞“了<sub>1</sub>”で、もう一つは文末に置かれる“了<sub>2</sub>”と呼ばれるものである。木村(1997)は“了<sub>2</sub>”は「話し手を取り巻く状況が〈新たな局面に移行した〉こと、または話し手にとっての〈現在〉において〈新たな状況が出現した〉ことを表す文法形式である」と述べている。具体的には以下のような例がある。

(14) a. 你 吃 了<sub>1</sub> 饭 再 去 吧。 (吕叔湘2004:351)

2SG 食べる PFV ご飯 また 行く PRTIMP

(ご飯を食べてから行きなよ。)

b. 吃 饭 了<sub>2</sub>。 (ご飯の時間になった。) (吕叔湘2004:353)

食べる ご飯 PRTCS

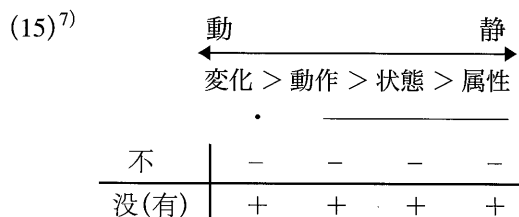
(14a) はご飯を食べるという行為が完了したことを表すが、(14b) は「ご飯を食べる」という新たな状況が出現したことを表している。2つの“了”にはこのような違いがあることは知られているが、荒川(1981,1995)によると、状態動詞に用いられる“了”は“了<sub>1</sub>”であっても完了を表すのではなく、状態の始まりを表す。つまり、“懂”“明白”“清楚”が“了”を伴った場合、それが“了<sub>1</sub>”であっても“了<sub>2</sub>”であっても、[-懂][-明白][-清楚]から[+懂][+明白][+清楚]への状態変化を表しているということになる。

#### 4. ダミー動詞を用いたVR型述語

##### 4. 1 VR型述語の表す状態変化義

井上(2004)によると、「中国語では、述語句の構成要素自体は時間の推移の意味を含んでおらず、「変化」を叙述するには、「動作」と「結果」の二つに言及」する必要がある。具体例として“洗-干净”(洗ってきれいにする)を挙げている。“洗”(洗う)と“干净”(きれいである)はそれぞれ単独では時間の推移を表せない。両者はそれぞれ1枚のスライドのようで、“洗”というスライドには「洗う」という動作が、“干净”というスライドには「きれいである」という状態が描かれている。時間の推移の中でのみ存在する「変化」を叙述するには「動作」と「結果」の両方に言及し、2枚のスライドを時間の流れに沿って並べる必要があるという。これをダミー動詞を用いて構成されたDRに当てはめて考えると、1枚目のスライドには非常に抽象的な「動作」ということしか描かれていないことになる。2枚目に「結果」を表すスライドを置くことで時間の推移が生まれ、「変化」を表すようになるのである。

“懂”“明白”“清楚”が「状態」、或いは一定の条件の下では「変化」を表し、“D懂”“D明白”“D清楚”が時間の推移の中で存在する「変化」を表すという違いは、それぞれの否定形に現れる。中国語の否定マーカーは大きく分けて“不”と“没(有)”の2種類がある。木村(1997b)によると、“没(有)”は「変化」、「動作」の否定に用いられ、“不”は「動作」、「状態」、「属性」の否定に用いられる。ここでいう「変化」とは、瞬間的な変化を表すイベントで、例として“灯没着”(明かりがつかなかった)の“着 zháo”(つく)や、“老牛没死”(老いた牛は死ななかった)の“死”(死ぬ)などが挙げられている。一方、「動作」とは意図的な動作行為と時間幅を持った非意図的な運動のことで、例としては“没下雨”(雨は降っていない)、“不下雨”(雨は降らない)の“下雨”(雨が降る)などがある。「状態」と「属性」は「変化」や「動作」と比べて静態的である。「状態」と「属性」の区別は「状態」が時間を背景に存在しているのに対し、「属性」は時間とは関係がないというところにある。具体例として「状態」は“累”(疲れている)、“饿”(ひもじい)が、「属性」は“姓”(姓は～である)、“聪明”(賢い)がそれぞれ挙げられている。そして、“不”と“没(有)”の使用状況の違いを以下のような図で示している。



(15)にあるように、「変化」、「動作」、「状態」、「属性」は左にあるものがより動的で、右に行くにつれて静態的になる。また、「変化」は瞬間的な変化を表すので点的であるのに対し、「動作」、「状態」、「属性」は一定の時間幅を持つかあるいは時間とは関係を持たないので線的である。

(15)のように、“不”は線的である「動作」、「状態」、「属性」は否定できるが、点的な「変化」を否定することはできない。それに対して“没(有)”は動的である「変化」と「動作」を否定することができる。

一定の条件の下で「変化」も表すことができる“懂”“明白”“清楚”は状態の否定には“不”が用いられ、“了”を伴い変化を表す場合は“没(有)”で否定される。一方、変化を表すVRは“没(有)”でしか否定されない。コーパスに現れたそれぞれの述語の否定形の出現回数は以下の通りである。

表3 それぞれの述語の否定の出現回数

	懂	明白	清楚	D懂	D明白	D清楚
不	167	111	20	0	0	1
没	2	11	0	3	5	10

“D清楚”が“不”で否定される例が1例あったが、これは(16)のような条件節内における否定であった<sup>8)</sup>。

(16) …, 如果 在 共产党员 中 不 弄-清楚 这 个 问题,  
 もしも で 共产党员 中 NEG NONG-分かっている これ CL 問題  
 (もし共産黨員の間でこの問題をはっきりさせないなら、  
 我们的工作将受到很大的损失。 《邓小平文选第一卷》  
 我々の活動は大きな損失を受けよう。)

このように、“懂”“明白”“清楚”とそれらのDR型には、前者は単独で述語となった場合は状態を表し、後者は状態変化を表すという違いはある。しかし、“懂”“明白”“清楚”は“了”を伴うなど一定の条件の下では状態変化を表すことができるので、その場合、DRを形成した場合としない場合とでどのような違いがあるのかははっきりしない。次

節以降では両者の違いを明らかにする。

#### 4. 2 VR型述語が構成する構文の意味

石村(1998, 2000)、中川(1992)は結果を表すVR型述語の本質は使役機能にあると述べ、さらに石村(2000)はVとRは単独で述語となっても使役の意味を含んでいないが、VRというように複合動詞化することで使役他動詞と同じ意味的機能が備わることも述べている。柴谷(1982:273)によると、次の2つの条件が当てはまる場合に、その状況を使役状況という。

- (17) a. 事象2がもう1つの事象、つまり事象1が起こった時よりも後に起こっている。  
b. 事象1と事象2の関係は、事象2の生起が事象1に完全に依存していて、他の総ての用件が同一である場合にもし事象1が起こっていなければ事象2も起こっていないだろうという反事実的推論が下せる状況である。

中国語の結果を表すVR型述語もこの2つの条件を満たしており、使役を表す構文であると言える。

VR型述語は“把”構文で用いられることが多い。“把”構文とは(1)で挙げた例文“他把桌子擦-脏了。”(彼はテーブルを拭いて汚した。)のように、目的語マーカー“把”を用いて目的語を動詞に前置させる構文である。木村(2000)は、“把”構文のプロトタイプは「主体が能動的に働きかけることによって客体に位置や状態変化を起こさせる」事態を述べることであり、使役文の一種として扱っている。また張伯江(2000)は“把”構文は動作性の弱い動詞には用いることができないことを述べている。“懂”“明白”“清楚”は単独で述語となった場合“把”構文を用いると非文になるが、DRを構成した場合には“把”構文で用いることができる(コーパスでの出現回数は、D懂：0回、D明白：5回、D清楚：12回)。

- (18) a. 我 (弄-)懂 他 的 意思 了。  
1SG (NONG-)理解している 3SG NOM 考え PRTCS  
b. 我 把 他 的 意思 \*(弄-)懂 了。  
1SG OM 3SG NOM 考え \*(NONG-)理解している PFV/PRTCS  
(私は彼の考えを理解した。)
- (19) a. 他 (闹-)明白 伙伴们 喊叫 的 原因 了。<sup>9)</sup>  
3SG (NAO-)分かっている 仲間PL 叫ぶ NOM 原因 PRTCS  
b. 他 把 伙伴们 喊叫 的 原因 \*(闹-)明白 了。  
3SG OM 仲間PL 叫ぶ NOM 原因 \*(NAO-)分かっている PFV/PRTCS  
(彼は仲間たちが叫んだ訳が分かった。)

(20) a. 我 (弄-)清楚 了 他 的 为 人。

1SG (NONG-)分かっている PFV 3SG NOM 人柄

b. 我 把 他 的 为 人 \*(弄-)清楚 了。

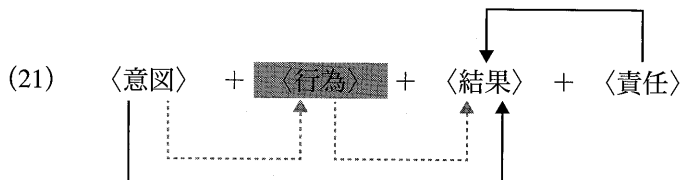
1SG OM 3SG NOM 人柄 \*(NONG-)分かっている PFV/PRTCS

(私は彼の人柄が分かった。)

“懂”“明白”“清楚”が“把”構文で用いることができないのは動作性が弱いためである。一方、DRは使役を表す構文であるので、同じ使役を表す“把”構文で用いることができるのである。それでは、使役とは何であろうか。以下では意味的・認知的な視点から考察する。

#### 4. 3 使役イベントに内在する4つの素性

Lakoff & Johnson (1980) は使役のプロトタイプを12の素性で表しており、西村 (1998:126-129) はこれを簡略化させ、〈意図〉〈行為〉〈結果〉〈責任〉の4つの素性の集合体で表わしている。これら4つの素性は相互に関係し合っている。〈意図〉は、〈結果〉を目標に持っているだけでなく、〈意図〉があるからこそ〈行為〉が生じるというように、〈行為〉とも因果関係が存在する。〈行為〉と〈結果〉の間にもまた、〈行為〉が行われたことで〈結果〉が生じるという因果関係がある。〈責任〉は、〈意図〉〈行為〉〈結果〉の3者の間に以上のような関係が成立している場合に〈行為〉の主体が〈結果〉に対して問われるものである。例えば「私はドアを開ける」では、行為者である「私」は「ドア」に何らかの変化を生じさせる(ドアが開く)ことを目標に〈意図〉を持っており、その〈意図〉があるからこそ、それを達成させるために何らかの動作(押すなど)を対象に対して行う。その動作によって、行為者から行為対象にエネルギーが伝達され、その結果目標通りの変化が生じ、「ドアが開く」という結果が得られる。そして、この動作の実行及び、その結果行為対象に生じる変化の主たる〈責任〉は行為者に帰せられる。DRを以上のような4つの素性に還元すると、〈行為〉はDにより、〈結果〉はRにより言語化されていることになる。ダミー動詞は抽象的な意味を表すものであるので、これら4つの素性のうち〈行為〉は背景化されるはずである。それに伴い〈意図〉と〈行為〉の関係、〈行為〉と〈結果〉の関係が背景化され、その結果、〈結果〉に対する〈意図〉と〈結果〉に対する〈責任〉という関係が前景化されるのではないだろうか。これを図式化すると(21)のようになる。



(21)の図式のようにDRを構成する場合は〈結果〉に対する〈意図〉や〈責任〉が強いはずである。“懂”“明白”“清楚”はいずれも好ましい結果であるので〈結果〉に対する〈責任〉よりも〈結果〉に対する〈意図〉の方が前景化されるのではないかと予測される。

#### 4. 4 結果に対する意図性

3. 2の(6)で示したように“懂”“明白”“清楚”は“吧”を伴って命令を表すことはできないが、“D懂”“D明白”“D清楚”であれば成立する。これは“懂”“明白”“清楚”が無意志動詞であるためである。DRを形成すると〈結果〉に対する〈意図〉性が生じるので(22)のように命令文に用いることができるようになる。

- (22) a. 不 懂 的 地方 问 一 问,  
 NEG 理解している NOM 場所 問う 少し 問う  
 尽快 弄-懂 吧, 不然真的会没有时间!!  
 なるべく早く NONG-理解している PRTIMP  
 (分からないところは聞いて、早く理解して!! そうでないと時間がなくなります!!)
- b. 将来 早晚 要 懂 的, 早点 弄-明白 吧!!  
 将来 遅かれ早かれ 必要がある 理解している NOM 早く NONG-分かっている PRTIMP  
 (遅かれ早かれ理解しなければならないのだから、早く分かりなよ!!)
- c. 这 个 你 快点 弄-清楚 吧!! (これを早く分かりなさい。)  
 これ CL 2SG 早く NONG-分かっている PRTIMP

また、“一定要~”(絶対に~したい)との共起においてもDRを構成した場合とそうでない場合との違いが現れる。

- (23) 这 个 问题 我 一 定 要 \*(弄-)懂。  
 これ CL 問題 1SG 必ず したい (NONG-)理解している  
 (この問題は私は絶対に理解したい。)

“一定要~”は強い意図性を要求する文脈であるので、(23)のようにDRは共起できるが、“懂”“明白”“清楚”が単独で述語を構成した場合は、これと共起できず、非文となる。コーパスに現れた例には、DR型を形成した述語は(24)(25)のように“(一定)要”(きつと~したい)、“想”(したい)、“才”(やっと)、“终于”(とうとう)、“必须”(必ず~しなければならない)、“总算”(やっとのことで)、“得”(しなければならない)などの副詞や助動詞と共起しているものが多かった(出現回数:“(一定)要”[13]、“想”[5]、“才”[5]、“终于”[3]、“必须”[2]、“总算”[1]、“得”[1])。

- (24) “不, 一定要 搞-明白!” 道静 在 心里 下 了 决心。  
 NEG 必ず したい GAO-分かっている 道静 で 心中 下す PFV 決心  
 (「いや、どうしても、はっきりさせなきゃ」道静は心で決心した。) 《青春之歌》
- (25) “江华对这个案件下了功夫, 组织 上 从 各 方面 搜集-到  
 組織 上 から 各 方面 収集する-到達する  
 (「江華はこの件を調査するのに、随分時間と労力をかけたのだから。組織では、  
 不 少 材料, 这 才 闹-清楚。” 《青春之歌》  
 NEG 少ない 材料 これ やっと NAO-分かっている  
 あらゆる方面から沢山の材料を手に入れて、その結果、やっとはっきりしたんだよ。)」

これらの副詞や助動詞と共に起していない例であっても、(26)~(28)のように、問題が複雑であったり対象が“难题儿”(難題)で簡単には解決できない状態であることが明らかな例も見られた。

- (26) “是 复杂, 是 不 好 弄-懂 啊……” 《金光大道》  
 COP 複雑 COP NEG しやすい NONG-理解している PRTRF  
 (「ほんとに複雑で、分かりにくいものなのですね……」)
- (27) 歪嘴子 这 个 混蛋 怎么 想 也 没 弄-明白; … 《金光大道》  
 口まがり これ CL バカ どう 考える も NEG NONG-分かっている  
 (「口まがり」のバカはどんなに考えても分からなかった。…)
- (28) “我记得咱们头一回见面, 你就给我出了个难题儿, 对吧?  
 (「俺達が初めてあった時のことを覚えてるぜ、お前は俺に難しい問題を出したっけね、  
 这 回 我 弄-明白 啦。…」 《金光大道》  
 これ CL ISG NONG-分かっている PFV/PRTCS/PRTRF  
 今度は答えられるぞ。…)」

このように、DRは「理解する」という結果を得るまでに時間や労力を要する文脈に多く見られた。また、DRを形成した(29)の文では“终于”(とうとう)は任意要素であるが、挿入した方が自然度が上がる。

- (29) 他 (终于) 把 伙伴-们 喊叫 的 原因 闹-明白 了。  
 3SG (とうとう) OM 仲間-PL 叫ぶ NOM 原因 NAO-分かっている PFV/PRTCS  
 (彼は(とうとう)仲間たちが叫んだ訳が分かった。)

つまり、期待する結果を実現させるために強い意図が必要であった、もしくは必要で

ある場合には、DRが用いられる傾向がある。以上のような振る舞いの違いからDRは、単独述語を形成した場合と比べて〈結果〉に対する〈意図〉性が強いといえる。

## 5. VRに現れるダミー動詞の機能

本稿ではこれまで、“懂”“明白”“清楚”が単独で述語になった場合とDRを形成し述語となった場合の違いについて、前者は状態或いは単純な状態変化を表し、後者は使役文の一種で、〈結果〉に対する〈意図〉性が強いことを述べてきた。このような意味的な違いがあるのは、DRを形成すると、VR型述語が構成する構文が持つ意味も担うようになるからである。

Talmy (2000) にはダミー動詞の機能についての記述がある。Talmy (2000) はイベント複合体の中核部分を典型的に動詞で表現する言語を動詞枠付け言語 (verb-framed language)、動詞の衛星 (satellite) で表現する言語を衛星枠付け言語 (satellite-framed language) というように、言語を2つのタイプに分類しており、中国語は後者に属することを述べている。衛星とは、名詞補部以外で動詞の語根と姉妹関係に立つあらゆる構成素からなる文法カテゴリーのことで、中国語のVRのRもまたこれである。衛星が文の要点を表す衛星枠付け言語の多くは、意味的に不必要に特定の付属イベントを実現することを回避するためのダミー動詞が発達しているという。例えば、英語の“The candle blew out” (その蠟燭は吹き消された) や “I blew the candle out” (私はその蠟燭を吹き消した) は蠟燭が消えた原因が “blow” であることが示されているが、ただ火が消えることだけを示す場合には “The candle went out” (その蠟燭は消えた) や “I put the candle out” (私はその蠟燭を消した) のように、go, put, do, make など総称的に働くダミー動詞が用いられる。このようなダミー動詞は統語的な「場所埋め役」として働くことで、意味的に重要な要素となっている衛星に文を続けるのだという。

中国語のVRに現れるダミー動詞もこのような統語的な「穴埋め役」として働き、VRという形を作ることで、VR型述語が構成する構文の意味、つまり使役の意味をRに担わせる機能があるのだと考えられる。本稿で扱った“懂”“明白”“清楚”がRになった場合、いずれも好ましい結果であるので〈結果〉に対する〈責任〉よりも〈結果〉に対する〈意図〉の方が前景化されることは6節で述べた。コーパスには現れなかったが、2項述語である“丢” (なくす) もまたDRのRに用いることができる。“丢”は好ましくない結果であるので、〈結果〉に対する〈意図〉よりも〈結果〉に対する〈責任〉が前景化されるのではないかと予測される。

- (30) 电脑室 的 钥匙 到底 是 谁 {弄-丢/??丢} 的?  
パソコン室 NOM 鍵 一体 COP 誰 NONG-なくす/なくす NOM  
(パソコン室の鍵は一体誰がなくしたんだ。)



(30) はパソコン室の鍵をなくした人は誰か、という責任性問う文脈である。(30) では DR 型述語であれば文は成立するが“丟”が単独で述語になると非文となる。これも、ダミー動詞が R に使役義を担わせる働きがある証拠の 1 つである。

今回集めた DR の例は合計 646 例であったが、そのうち R が 2 項述語である例は 94 例で、“懂”“明白”“清楚”のみであった。R に現れる述語のほとんどが 1 項述語であるのは、V がダミー動詞以外の場合も同じである。このように、限られた 2 項述語のみが R に現れることができることは、Gu (1992) にも指摘されている。Gu (1992:88-108) によると、R に置くことができる動詞に共通する特徴として、非対格動詞であるか或いは主語が経験者であることを述べている。“懂”“明白”“清楚”“丟”は全て、主語が経験者である動詞なので R 位置に来ることができるのである。

## 6. 結論

本稿では“懂”“明白”“清楚”が単独で述語を構成した場合と DR を構成した場合との違いを明らかにし、VR に現れるダミー動詞の機能について考察した。“懂”“明白”“清楚”が単独で述語を構成した場合とそれらが DR を構成した場合とでは、結果に対する意図性の有無に違いがあることが分かった。また VR に現れるダミー動詞の機能については、先行研究では R を使役化させる働きがあることが指摘されてきたが、単に〈意図〉〈行為〉〈結果〉〈責任〉の 4 つの素性を持つ使役ではなく、〈結果〉に対する〈意図〉や〈責任〉の前景化された使役であることが明らかになった。

## 註

- 1) 本稿は日本中国語学会第 1 回関東支部拡大例会の口頭発表に基づくものである。
- 2) 本稿ではグロスに次のような記号を使用する。1,2,3 : 1,2,3 人称、CL (Classifier) : 類別詞、COP (Copula) : コピュラ、CSC (Complex Stative Construction) : “V 得 Stative clause/VP” で Stative clause/VP は V の様態や程度を表す、NEG (Negative) : 否定、NOM (Nominalizer) : 連体修飾マーカ、OM (Object Marker) : 目的語マーカ、PFV (Perfective Aspect) : 完了アスペクト、PL (Plural) : 複数、PRTCS (Sentence Final Particle (Change of State)) : 状態変化を表す文末助詞、PRTIMP (Sentence Final Particle (Imperative)) : 命令の語気を表す文末助詞、PRTRF (Sentence Final Particle (Reduced Forcefulness)) : 語気を和らげる文末助詞、SG (Singular) : 単数。また、ダミー動詞のグロスは“弄”を NONG、“搞”を GAO、“闹”を NAO と示す。
- 3) これまでダミー動詞の研究で“闹”を対象に入れているものはほとんど見られない。ダミー動詞を詳細に分析した刁晏斌 (2004) も“闹”は方言色が強く、標準語において比較的容認度の高い用法、例えば“闹学潮”(学生運動をやる)などもマイナスの意味を含んでおり、単純な「～する」という意味とははっきりとした区別があることを指摘している(刁晏斌

2004:31)。しかし、DRに現れる“闹”は(4)のように必ずしもマイナスの意味を含んでおらず、特にRが心理動詞である場合、標準語においても容認度が高い。よって、本研究ではDRに現れるダミー動詞として“弄”“搞”“闹”を研究対象とした。

- 4) 原本が中国語のもののみを使用した。文学作品が23編、文学作品以外が13編、日中共同作品が2編。具体的な作品名は最終頁に示す。
- 5) この他に、単独で述語となった場合、直後に目的語が取れるものとして“通”(通曉する)があった。しかし、“通”は2項述語として生産性が高くないのでここには含めなかった。
- 6) 区別詞とは、修飾する名詞の前に現れる粘着語である。数量詞の修飾を受けることができない、単独で主語や目的語になることができない点において名詞と異なるが、述語にもならないので、一般の形容詞とも異なる。「連体詞」に近い品詞を指す。(朱德熙 1986:31, 1982:52-54)  
\*一 块 金 金 房子 这 只 镯子 是 金 的。  
一 CL 金 金 家 这 只 CL 腕輪 COP 金 NOM  
(一塊の金) (金の家) (この腕輪は金です。)
- 7) 原文は中国語で書かれたものであるが、これを日本語に訳した。また、動態、静態に関しては他の図を設けていたが、ここでは便宜上1つの図に収めた。
- 8) 刘月华(2002:539)に、VRは条件節にあるときのみ“不”で否定されるとの指摘がある。なぜ条件節においては“不”で否定されるかについては、“不”と述語の間に“会”(～だろう)、“想”(～したい)など表層には現れていない能願動詞があり、“不”は直接述語を否定しているのではなく目に見えない能願動詞を否定しているためであるという指摘もある(Huang 1988、陈莉・潘海华 2006)が、ここでは深い議論には立ち入らない。
- 9) 《金光大道》にある文を一部変えたもの。

## 参考文献

- 荒川清秀(1980)「中国語の状態動詞」『愛知大学文学論叢』65号, 325-350  
——(1981)「“了”のいる時といらぬ時」『中国語学』228号, 70-79  
——(1995)「中国語の状態動詞」『中国語研究論集3』大東文化大学, 26-42  
井上優(2004)「日本語と中国語の「変化」の表現」『次世代の言語研究Ⅲ』筑波大学現代言語学研究会  
石村広(1998)「動補動詞の認知的視点」『中国文化』56号, 11-22  
——(2000)「中国語結果構文の意味構造とヴォイス」『中国語学』247号, 142-157  
木村英樹(1997)「動詞接尾辞“了”の意味と表現機能」『大河内康憲教授退官記念中国語学論文集』東方書店  
——(2000)「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリー化」『中国語学』第50回大会記念号247号, 19-39

- 朱德熙著；中川正之，木村英樹編訳（1986）『基本中国語学双書1 文法のはなし——朱德熙教授の文法問答』光生館
- 望月圭子（2003）「日本語と中国語における使役起動交替」『松田徳一郎教授追悼論文集』研究社，236-260
- 中川裕三（1992）「CR他動詞文について——認知言語学的観点から——」『中国語学』239号，76-85
- 西村義樹（1998）「行為者と使役構文」『構文と事象構造』研究社，107-203
- 柴谷方良（1982）「日本語・英語」『講座日本語学10 外国語との対照I』明治書院
- G. レイコフ，M. ジョンソン著；渡部昇一，楠瀬淳三，下谷和幸訳（1986）『レトリックと人生』大修館書店
- 陈莉 潘海华（2006）〈现代汉语“不”和“没”的体貌选择〉第十四次现代汉语语法学术讨论会
- 刁晏斌（2004）《现代汉语虚义动词研究》辽宁师范大学出版社
- 刘月华等（2002）《实用现代汉语语法（增订本）》商务印书馆
- 吕叔湘（2004）《现代汉语八百词 增订本》商务印书馆
- 马庆株（2002）〈自主动词和非自主动词〉《著名语言学家自选集・马庆株卷》安徽教育出版社 160-191
- 木村英樹（1997b）〈‘变化’和‘动作’〉《橋本萬太郎記念中国語学論集》内山書店 185-197
- 张伯江（1994）〈词类活用的功能解释〉《中国语文》第5期 339-346  
——（2000）〈论“把”字句的句式语义〉《语言研究》第1期 28-40
- 张国宪（2006）〈性质、状态和变化〉《语言教学与研究》第3期 1-11
- 朱德熙（1982）《语法讲义》商务院书馆
- Gu, Yang（1992）*The Syntax of Resultative and Causative Compounds in Chinese*. Ph.D. dissertation, Cornell University.
- Huang, C.-T. James（1988）*Wo pao de kuai and Chinese phrase structure*. *Language* 64: 274-311.
- Lakoff, George and Johnson, Mark（1980）*Metaphors We Live by*. Chicago. The University of Chicago Press.
- Talmy, Leonard（2000）*A Typology of Event Integration. Toward a Cognitive Semantics – Vol. II : Typology and process in Concept Structuring*, MIT Press: 213-88.
- 和訳：高尾享幸訳（2000）「イベント統合の類型論」坂原茂編『認知言語学の発展』ひつじ書房

## コーパス

『中日対訳コーパス』（2003）北京日本学研究中心

収録作品：史铁生『插队的故事』、陈建功『盖棺』、陈建功『丹凤眼』、陈建功『辘轳把胡同9号』、冰心『关于女人』、王蒙『活动变人形』、莫言『红高粱』、浩然『金光大道』、巴金『家』、张海迪『轮椅上的梦』、鲁迅『呐喊』、鲁迅『彷徨』、杨沫『青春之歌』、张爱玲『倾城之恋』、阿城『棋王』、谌

容『人到中年』、戴厚英『人啊，人』、周而复『上海的早晨(上)』、茅盾『霜叶红似二月花』、鲁彦周『天云山传奇』、王安忆『小鲍庄』、老舍『骆驼祥子』、刘心武『钟鼓楼』、『人大报告96』、『人大报告97』、『人大报告98』、『人大报告99』、毛毛『我的父亲邓小平』、『邓小平文选第一卷』、『邓小平文选第二卷』、『邓小平文选第三卷』、人民日报,朝日新闻『中日飞鸿』、『毛泽东选集第一卷』、『毛泽东选集第二卷』、『毛泽东选集第三卷』、『毛泽东选集第四卷』、金冲及『毛泽东传』、『中日外交两个基本文件(中日建交联合声明,中日和平友好条约)』